

高学年3組 虹の輪学習指導案（修正案）

授業日 平成30年9月25日（火）6校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 梅津 祐介

会場 高学年3組教室

1 単元名

未来開墾！－食べる楽しさ まちのよさ－

2 本単元の価値

探究課題及び学習事項は以下のとおりである。

【探究課題】

食文化豊かなまち新潟と、食べる楽しさの発信

【学習の対象】

- ・人：片山喜弘さん（片山商店店主，五ツ星お米マイスター）
- ・もの：新潟産の米（コシヒカリ，新之助，こしいぶき）
- ・こと：新潟産の米の食べ比べ体験の開催

【学習事項】

- ・新潟産の米の食べ比べを行う。 <体験に対する信頼の形成>
- ・米の楽しみ方を伝える活動と，その意味を考える。 <活動の意味の導出>

新潟市（以下：新潟）は砂丘列と低湿地帯が織りなす特徴的な地形を生かして，主要作物の米（コシヒカリ）を中心にして，魅力的な農産物が産出される日本有数の田園都市である。また，沖合では様々な水産物が水揚げされているほか，信濃川や阿賀野川ではサケの漁獲もある。その一方で，江戸時代から北前船の寄港地として発展した港町で育まれた料亭文化や地酒，発酵食品など多彩な食の魅力をも併せもち，それぞれの恵みを受け合っただけでなく食文化が形成されてきた。田園と港町の共存による食文化の豊かさは，産業の活性化や交流の拡大などにつながる創造的なまちづくりを目指す資源になっている。

このように食文化は，食材に限らず，調味料，郷土料理，作法，食器など様々な要素から成り立っている。したがって，新潟の食文化を理解しようとするならば，多様な食材について知り，先人の知恵や努力にも目を向けることが必要である。その第一歩として子どもが関心をもった食材が，新潟産小麦「ゆきちから」であった。前単元で子どもは，ゆきちからの認知拡大を目的とした学習を進め，その成果を「新潟日報みらい大学『サマーセッション』」で発表した。この発表によって子どもは，「他の新潟産の食材についても調べたい」という意欲と，「新潟は食が豊かなまちである」という実感をもった。

本単元ではまず，サマーセッションにおける学びを振り返り，これからの活動の目的を設定する。それは，サマーセッションを終えて子どもがもった意欲と実感，サマーセッションの目的（「新潟の未来を元気に」）を総合的に振り返ることで見いだされる。まちの活性化を視点に考えた子どもが見いだす目的は，「新潟の未来を食で元気にする」ということであろう。そして，対象とする食材は，新潟産の米である。子どもは，米の消費量の減少，他県のブランド米の躍進など，新潟産の米を取り巻く厳しい現状については既に知っている。現状を知っているが故に，新潟産の米にマイナスの評価を抱いている子どももいる。このような子どもに，新潟の主要作物である米の楽しみ方を考えさせることは，新潟の食文化を理解する上で必要なことである。

そこで，お米マイスターの方から新潟産の米の評価を聞いたり，新潟産の米（コシヒカリ，新之助，こしいぶき）の食べ比べをしたりする場を設定する。新潟産の米の特徴（味，粘り，食感等）について考えさせるためである。この体験を基にして，子どもが新潟産の米の楽しみ方を伝える方法を考えることが本単元の主要な学習内容である。新潟産の米の楽しみ方を考えることは，新たに見いだした目的「新潟の未来を食で元気にする」を実感に動機付けられた目的意識に変えていく意味があり，多彩な新潟の食文化を楽しむ活動を子どもが考える次単元の学習につながっていく。

食べることは，人の楽しみの最上位である。子どもが新潟産の米の楽しみ方を考えることを通して，新潟の食文化への関心をより一層高めることを期待する。

3 本単元で目指す姿

他者が地元食材に共感する道筋を描くことを通して、活動の意味を明確にする子ども

具体的には、まちの特色に着目し、自己の在り方と関連付けて考えるという「見方・考え方」を働かせ、多面的・多角的に解釈する力などの資質・能力を発揮して、「新潟の食材を食べることを楽しむ人を一人でも増やすことが、新潟の未来を食で元気にすることにつながっていくと思う」と考える姿。

4 本単元で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

5 指導計画 全15時間

単元カード参照

6 指導の構想

前単元で新潟産小麦「ゆきちから」を対象として学習を進めた子どもは、サマーセッションの場において「諸外国に頼らない食の取組を新潟市から発信していきたい」と述べた（②**思考力・判断力・表現力**）。これは、「美味しいものをより多くの人に食べてほしい」という生産者の思いや努力を知ったことと（①**知識・技能**）、子どもがもつ新潟産の食材に対する愛着や価値（③**態度**）によって導かれたものである。

この「サマーセッション」における発表は、最も印象的な活動として子どもに認識されている。ゆきちからの認知拡大を目的とした場として、十分過ぎる舞台だったからである。しかし、この発表によって自分たちがどのような学びを得たのかというところまでは自覚していない（C0）。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

サマーセッションで感じたことは何かと問い、サマーセッションの本来の目的を提示する。

学習課題を設定するための働き掛けである。前単元で印象に残った活動がサマーセッションだと考えている子どもに、発表したことで感じたことは何かと問うとともに、サマーセッションの主催者である新潟日報が設定した目的を提示する。サマーセッションを対象化して、新たな目的を見いださせるためである。子どもがサマーセッションで最も感じたことは、「他の新潟産の食材についても調べたい」という意欲と「新潟市は食が豊かなまちである」という実感である。そして、サマーセッションの本来の目的は、「新潟の未来を元気に」というまちの活性化を目指したものである。サマーセッションの本来の目的を知った子どもは、**まちの特色に着目し、自己の在り方と関連付けて考えるという「見方・考え方」**を働かせて、まちの活性化を視点にした『新潟のまちを食で元気にする』ために、「どんなことができるか」という学習課題を設定する。

働き掛け2

お米五つ星マイスターの話聞く場を設定し、学習課題を解決する方法を問う。

課題解決の見通しをもたせるための働き掛けである。サマーセッションを通して、「他の新潟産の食材についても調べたい」という意欲をもった子どもは、新潟産の食材とその生産者についても調べた。その中で、味噌を製造、販売する片山商店店主、片山喜弘さんの存在を知る。片山さんは新潟市内で6人しかいないお米五つ星マイスターの資格をもつ方である。片山さんを訪ね、米にはご飯として食べる食味利用と、米糀や米菓の原料としての成分利用があるという話をしていただく。子どもの米に対する関心を高めるためである。

その後、改めて片山さんから子どもに向けたビデオメッセージを提示する。働き掛け1によって設定した学習課題はまだスローガンのようなものであり、実感に動機付けられた目的意識に変えていく必要があるからである。ビデオメッセージでは、新潟市がお米のまちとして強くなってはいけないこと、新潟市は様々な米が生産され、それらの特徴の違いを楽しむことができるまちであること、米の消費量が減る中で米の楽しみ方を多くの人に知ってほしいことを話してもらっている。そして、ビデオメッセージを視聴した子どもに、学習課題を解決する方法を問う。これらの働き掛けによって子どもは、**まちの特色に着目し、自己の在り方と関連付けて考えるという「見方・考え方」**を働かせて、「新潟の未来を食で元気にする」という課題を新潟産の米の特徴を楽しむことができる取組を考えることで迫ろうとする。

働き掛け3

3種類の新潟産の米を食べながら指標（硬さ、粘り、甘み）を記録させ、食べ比べをした感想を問う。

米の特徴の違いを実感させ、食べる楽しさを実感させるための働き掛けである。米の特徴を楽しむ取組を考えた子どもに、新潟産の米の食べ比べをする場を設定する。食べ比べをする米は、コシヒカリ、新之助、こしいぶきである。子どもが食べ比べをする際は米の品種だけを教え、3種類の米を食べながら指標（硬さ、粘り、甘み）を記録させていく（**総合①知識**）。子どもは、それぞれの米の特徴（しっかり、もちり、強い等）を収集し、特徴を感じながら米を食べることに楽しさを感じる（**総合②思考力・判断力・表現力、総合③態度**）。そして、食べ比べの後に、その感想を問う。子どもは、「米の特徴の違いを比べる楽しさ」、「自分の好みを知る楽しさ」、「自分の好みに合わせて米を選べる楽しさ」等を述べる。これらの感想が、新潟産の米を食べ比べすることへの信頼となる。

働き掛け4

米の食べ比べを他の人に体験してもらうことを提案し、そのことが「新潟の未来を食で元気にする」ことにどのようにつながるのかを問う。

「新潟の未来を食で元気にする」ことの意味を考えさせるための働き掛けである。子どもが行った米の食べ比べを、他の人（今回の対象は、校内の児童）に体験してもらうことを提案する。子どもは美味しさだけが食べる楽しさを感じる要素ではないことを経験している。3種類の米を味わうことができること（選べる楽しさ）、それぞれに違った特徴をもっていること（違いを味わう楽しさ）、自分の好みを知ること（発見する楽しさ）も食べる楽しさの要素である。子どもは、自分たちが食べ比べによって感じたこれらの楽しさを他の人も感じてくれるだろうと考える。このとき、米の食べ比べ体験が、米を食べることを楽しむ人を増やす手だてになると認識する（**総合①知識・技能**）。

そして、米の食べ比べ体験を行うことが、学習課題である「新潟の未来を食で元気にする」ことにどのようにつながるのかを問う。子どもは、「新潟の食材を食べることを楽しむ人を一人でも増やすことが、新潟の未来を食で元気にすることにつながっていくと思う」と考える（**総合②思考力・判断力・表現力、総合③**）。このような姿が、本単元で目指す**他者が地元食材に共感する道筋を描くことを通して、活動の意味を明確にする子どもの姿**である。

その後、それぞれの米に合った美味しい炊き方をお米五つ星マイスターの片山さんから教えていただいたり、食べ比べ体験の詳細を考えたりして本番に備える。

働き掛け5

食べ比べ体験の参加者のアンケート結果を基にした振り返りの場を設定し、今後の活動の在り方について問う。

これまでに発揮した資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。米の食べ比べ体験の参加者のアンケート結果を基にして、実践した活動を振り返る場を設定する。これによって、実践した食べ比べ体験を対象化することができる。アンケート結果を分析した多くの子どもが、成功感をもつ。その要因を考えると、単元で発揮した資質・能力の自覚が表れる（**総合①知識・技能、総合②思考力・判断力・表現力**）。

また、成功感をもった子どもに、今後の活動の展開について問う。これによって、他の新潟産の食材や、他の食のイベントへの関心を表出させる。このように成功感をもったまま次の活動に向かうことが、次の単元につながっていく（**総合③態度**）。

7 本時の構想

(1) 本時のねらい（本時 7/15時間目）

新潟産の米の食べ比べ体験を行うことが、米を食べることを楽しむ人を増やすことに気付き、「新潟の未来を食で元気にする」ことの意味に迫ることができる。

(2) 展開

| 学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力 | 教師の働き掛け |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1 新潟産の米を食べ比べしたときの様子を振り返る。 | 食べ比べをしたときの映像を提示する。 【働き掛け4-①】 |

- ・米の特徴に違いがあることがよく分かって前よりお米に興味が増えた。
- ・お米によってこんなに違いがあるんだってことに驚いた。
- ・自分の好みが分かって、楽しかった。
- ・美味しいものを食べるだけが、食べることの楽しみじゃないんだと思った。
- ・これは新之助かな、コシヒカリかなって想像することが楽しかった。

○指示「食べ比べをしたときの映像を見てみましょう」

○発問「食べ比べをしてどうでしたか」

※ 食べる楽しさには、「選べる楽しさ」、「違いを味わう楽しさ」、「想像する楽しさ」、「自分の好みを知る楽しさ」等があることをまとめる。

2 食べ比べ体験を行うことの意義について考える。

- ・それはいいと思う。参加した人に米の食べ比べを楽しんでもらえると思う。
- ・米に興味をもってくれたり、食べることを楽しんでくれたりすると思う。
- ・新潟産の米を選んでくれるようになるかもしれない。
- ・増えていくと思う。私たちと一緒に米を食べることを楽しむ人が増えてほしい。
- ・増えてくれなければ、食べ比べをやる意味がない。

★総合①

米の食べ比べを他の人に体験してもらうの はどうかと問う。 【働き掛け4-②】

○発問「皆さんがやったような米の食べ比べを他の人に体験してもらうのはどうでしょうか」

※ 参加対象は校内の児童，実施するのはおにぎり給食の日であることを伝える。

※補助発問「食べ比べをすることで、米を食べることを楽しむ人や興味をもつ人が増えていくということですか」

3 「新潟の未来を食で元気にする」ことの意味を考える。

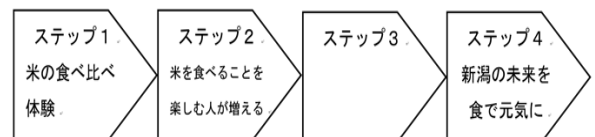
- ・米を食べることを楽しめれば、他の新潟産の食材を食べることも楽しむようになる。
- ・自分の好みの米に合う食材を探すようになるんじゃないかな。自分だったらそうする。
- ・それって、食べることを楽しんでいる姿そのものじゃないの？
- ・そういう人を増やすと、ステップ4につながっていく。
- ・新潟の未来を食で元気にするって、食べることを楽しむ人を一人でも増やすことじゃないかな。
- ・米は新潟の食材の土台のようなもの。その食べ比べだから他の食材も楽しめるようになると思う。
- ・米以外の食材の楽しい食べ方を伝えることが、新潟の未来を食で元気にすることにつながっていくと思う。
- ・まちが元気になると人が集まることだと思っていたけど、新潟の食を楽しむ人が増えることだと考えれば、私たちにもできることがありそう。

★総合②

米の食べ比べ体験を行うことが「新潟の未来を食で元気にする」ことにどのようにつながるのかを問う。 【働き掛け4-③】

○発問「食べ比べ体験をすることが『新潟の未来を食で元気にする』ことに、どのようにつながっていくのですか」

※補助発問「ステップ3には、どんな内容が入るでしょうか」



※補助発問「食べ比べる食材が米でなくても、同じステップになるでしょうか」

※ 授業終末，本時の学習の振り返りをさせる（振り返りシート）。

(3) 評価

米の食べ比べを体験してもらうことと、「新潟の未来を食で元気にする」こととのつながりを考えることができる（発言・ワークシート）。

（例）新潟の食材を食べることを楽しむ人を一人でも増やすことが、新潟の未来を食で元気にすることにつながっていくと思う。